

中國出土資料學會  
会員各位

下記の通り、本年度大会を開催いたしますので、ふるってご参加いただきますよう、お願いいたします。

2020年11月1日

中國出土資料學會  
会長 宮本 徹

---

中國出土資料學會  
2020年度大会

日 時：2020年12月12日（土）  
研究報告 13:00～17:00

報告Ⅰ 田熊 敬之

（東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員DC2）

発表題目：墓誌からみた東魏北齊堯氏の台頭とその背景

発表概要：『北齊書』卷二〇堯雄伝によれば、堯雄の兄弟は、北魏末の混乱のなかで高歡のもとに身を寄せ、軍事的な功績を挙げて政権の確立に寄与した家柄に属す。堯氏の実態についてはこれまで深く検討がなされることはなかったが、「磁県北朝墓群」にある東魏北齊皇帝陵の付近には堯氏家族の墓地が営まれ、そこから墓誌を含む大量の考古遺物が発見されている。この点は、北齊における堯氏の地位の高さを如実に物語るものである。本報告では、堯氏一族の墓誌を手がかりに、特に堯雄兄弟の官歴の比較を通じて、堯氏が東魏北齊で地位を向上させていった過程と要因を分析する。それと同時に、北魏から北齊にかけての堯氏の一族としてのあり方を、当時の時代背景のなかに位置づけていきたい。

報告Ⅱ 山本 堯（公益財団法人泉屋博古館学芸員）

発表題目：殷周金文辨偽新考

発表概要：殷周金文は先秦史研究において不可欠の重要性をもつ史料群であるが、鑄造技術によって表された文字であるという性格ゆえに、その史料としての特質を理解するうえでは鑄造法の問題が重要な意義を有する。長らく未解明であった殷周金文の鑄造法について、発表者はこれまでに復元鑄造実験を通じて新たな仮説を提唱し、その検証を行ってきた。今回はその実験の詳細を改めて報告するとともに、そこから派生する問題として、殷周金文の辨偽について先行研究に対し新たな観点から再検討を加える。従来は、ともすれば拓本資料のみに依拠してきわめて曖昧な議論に終始しがちであった辨偽の問題に対し、器制・紋様・鑄造技術など複合的な観点を導入した方法論の必要性を提起したい。

報告Ⅲ 于 淼（揚州大学文学院講師）

発表題目：漢“剛卯”“嚴卯”新考

発表概要：本文整理了歷代有關漢剛卯、嚴卯的著錄情況，以考古發現漢代剛卯為依據，結合部分館藏品，對漢剛卯、嚴卯的形制、銘文和性質進行了梳理和考證。漢剛卯、嚴卯因材質不同而大小不同，相同材質的剛卯、嚴卯大小相當。銘文釋讀方面，應該將剛卯嚴卯的銘文結合起來，傳世文獻中所謂“庶疫”其實是“尺蠖”和“赤疫”兩個詞的誤寫。剛卯、嚴卯上的字體因書寫載體的不同而不同，不應以“爻書”一概而論，剛卯、嚴卯銘文應屬祝由辭，原本應與驅疫行為有關，而逐漸演變為佩飾。

※ 今大会はzoomを利用したオンラインでの開催となります  
参加希望者は下のリンクから事前登録をお願いいたします  
登録受付期間：11月2日（月）～12月7日（月）

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSddb2dpjTH4nneLOEsGxfFpUK3RMtribH5p1zs-9Y4Vk1GNSg/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSddb2dpjTH4nneLOEsGxfFpUK3RMtribH5p1zs-9Y4Vk1GNSg/viewform?usp=sf_link)



連絡先（大会委員長）

〒270-8555

千葉県松戸市新松戸3-2-1 流通経済大学法学部

富田 美智江

Tel：0297-60-1930（直通）

E-mail：

[tomita-michie@rku.ac.jp](mailto:tomita-michie@rku.ac.jp)